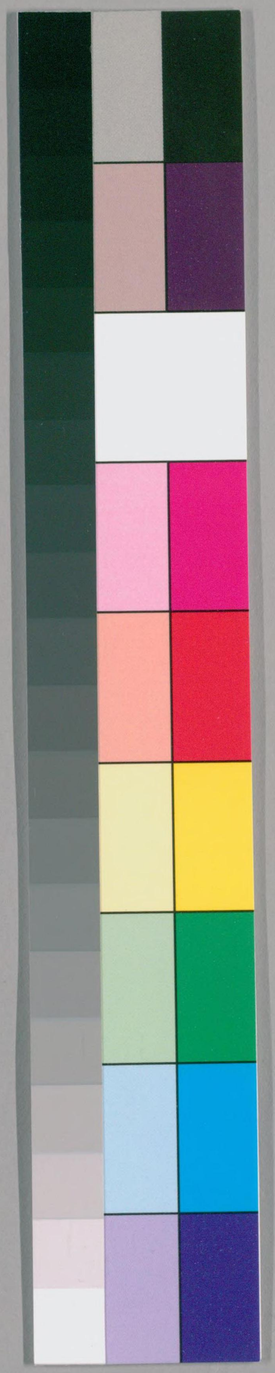
830
30
107



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇津保物語

俊蔭

二止

830
107

今ノ板本十六の巻ノ二

古本一の巻

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇津保物語 下

帝室図書之印
浅草文庫

祝物　舞踏

西宮紀　臨時　祝物

於承殿有御遊之時伏録者無舞教氏等既馬之時取保一納
申納言俊蔭二膝突伏録之時左既一納立退至于壇上御前採下自元
子伏録左既一納出所庭子再度舞頭舞踏　村上天皇祝御下座
取保左居小納言頭下殿舞踏之、於平座伏底衣者
舞更不着履　中宮　延末宇　天皇幸井雅明敦
間、典節不誤、今上既半臂伏取之納舞

大正
4.7.20
購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

大正
4.7.20
購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

和名抄　本草云當稗
一名山芋　和名波乃阿以
毛云て
同　岩菌鍋食経云薯蕷
言酔和名上古呂伯用苑
字漢語抄用野老二字今
按所出味苦小甘無毒
並未詳
延喜大膳式　苅三
合　薯蕷四葉
拾遺
もゝの子うつせみ
とものみこ
ふるさとをきてとふ
とりもなく
むかしへ
もゝの子よりも
うつせみ

記中宇麻良尓波許志
毛知袁勢婆麻呂賀知
備馬赤　鷹子
太加乃已波幸呂女太宇
波良弁天子須恵天皇

寛平后宮哥合
うつせみの
もゝの子よりも
なりもの
ものをこそ
おもへ

この椙のうつほよ
取るの侍るより
やうやうにものゝ
おそせ

うつせ

童
行
薯蕷　野蘭
菜
葛
焼
調
杉
牡熊
開
合
屋
洞
牡熊
里

和名抄　本草云薯蕷
一名山芋　和名抄以
毛豆天

同　唐韻錦食経云薯
音署和名上古以俗用薯
蕷字今

延喜大膳式　若干
合　干薯蕷四葉
拾遺

童
ゆ
行
杉
四
物
牝熊
洞
屋
出
草
里

調
閑合
牡熊

薯蕷　野老
葛
焼
倒

記中宇津保ノ波許志
毋知袁勢本呂賀知
能馬未　鷓子
太加乃巳波未呂女太与
波良牟天子須恵天皇

寛平后宮高人
うつせみのうつほ物をかたるそのうつほ物語をかたるそのうつほ物語を

無益

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

由清云 本ニハ本ヨリ
傍ニ注セル本行ニ入
タルナルヘシ 初ヨリ本行ニ入
ルハヨキヤウナレトコニ又
ニ用ナシ サカシラニクハ又
ルナルヘシ

ロコノ詞心浮タカモ
ロレ

由清云 おもハ本まと
像ニ注セル本行ニ入
タルナルヘシ おもよヤウナレトコヽ又
ハヨキヤウナレトコヽ又
ニ用ナシサカシラニクハ又
ルナルヘシ
いやしきハ称ことも
なるへし
大和ニ
ふよよふそうなるを
なんとゝいふなるへし
ロコう詞心得ラオセ
ロレ

えてく、あのうへをそれのうちそこ
ありそもろいでてそこ
まあそ(仕ナシ)ありあいまへ(泉)ゆりう
まそ(出)あのこゝろれりよゆ(堀)
てそれりよゆくい
みがまう酒平へてもゆ
そ、ほうくいてく海(掃)るあ
ち給(十八)そうおつまう
うもゆうりむとゆ(馬)へ
てもうりまうぬんのこゝえんこ
う海ん(外)ことゝ地(牛)
(十九)

しくいんもうあの山よありて
やふ、ありよいてそれもうよ(飛)
もそやうんとゆりてそ
よ(鳥)ゆうろ海う平てそりの
もやそくやいんまうそをます
とうへいのおういい紙このいま(泉)
うそくむそをあともあ
人のあくいそそ、いそ
とあ、やもそおこうをそ
むこ給(仕)ありそこゝみおそ
れこうてそこゞをその海(母)
(仕)

大和ヨリウ
泉州ヲ和泉ヨリヒロオ
東屋

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

そやまもりはとゞめてとをのうてまつ

みてかへるをばいかゞ我ひとさてしもあるべきことにもあらねば、人まをすをきゝつゝ、ゆきかへりみるもおほかりけり。ゆきてみるにこぬしもなくて、ありしよりもいとゞあれまさりて、あるじのをとこのかたち

ぞろ〳〵國王（こくわう）の女（むすめ）れ右天女（てんによ）をくれねをくにもの（食物）のをりてゐてまれ（友）（もイ又ハ）をおやをひてい（仰）かばさてやてこれるりこれどもの（都）ふつそてくいもそろのてりくあのまりうやこよう（敬）れうくむせ。

（左日記 うちぐもくいせんとりまそこをうまを 報恩ノ報ナリ 右報ニアラズ）

（笈 帳のうちよりもいつきうつきやまをうまを）

さうるく

（ゐイ又明）（とイ又明）

（拘）

（報）

（ゐイ又ハ）

（見）

（ヨなイ本ハ）（ヨもし）（ヨこそ）（ヨこそ）（ヨこそ

ぞうく國王め女れ右天女をくの来
れねをくのものそいえ来のう
ものをうりめて(ヨミ)ま(イ文明)れくかをみそして珍しの
まれとかものやなうひうそうつ
うそひて、いつきうつきし
かほさうとてめそくれるまくそうり
これさうともに座つれて、めまう
くうすもおそれうう。あいそう
ふつそそくいもそうくのさまくる絢
のそに行くそりくうめまれるよ珠玉
もうきよううれあうくむ
せむものこ宝

土左日記 このくおうい
せんとりみそうこをうえ
報怨ノ駁より 箱根ニうえ

策 帳のうそうき世ん
いつきうつきやまをそう
そ

さうるく

あをうら防已せ
和名抄馬鞭草 稽
文米豆今良
式ム墨曾曙黒葛十
三ヱより
古今秘注孫姫式よ
なかつきのあをう
らことをとうてひて
日も天をりぬひい
な一
拾遺集 物名 こゑく
恥をこゝにいまめきよ
けりまつらふやう
くまくしあめつむ

拾遺集物名 橘 そとこうろ
ゆうてうとうるま
月てあれあんしをうれていおしうるす一

あ百人の翁そんをうれうて歌
みつめくをきしいくよ
見
らてめんうそうをものつうと
くいうをうこそうりうをうひつ
ゑ古事記 傳廿 巻

いうき 新明紀五
葵六うみくりあ
つきをこうまうまる
いこのめきうう
嵯峨院ナオ一すと
さうそうがんやを
吹上下三オ六位の

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

あぐらもこの国のことをもみてこのそのそうぐ
よみもろこそそろよ山のくりのぐ
人ひとそりてのこるみをんうるのあり
ひとりいてつ燭火ともしてつつやかにこれかのこと
つひもさいめていうううむとこ
その給ふ。我とより国うりてひ
むさいひとくまやかをつかる
めれとありいてこれもむ風のこと
ひきうんよぬのセ人のひ
よいそっかつくを一てふうきる
なる山のまてそたる里ひさ

天武紀七年 園簿

立 田

午 時

上京とまちおとすえーがるる南郎位ふーおて

手

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

右大将冏郎若子君
とすえ一ハ今ハ兼
政ぞ一

右大臣三郎忠政
とやら上野介義武治の
ゐまハ長男佐ぞ又
ぞ一ぞ一

ひらぞう一ハ一枝
せぞ風流後治
郎のみぞ一ぞ一
るまあり今の治綱後
るぞう

天狗 神社ぞ一ぞう

例のすまひあき
ぞく父の大臣殿の
御義治ぬし時ぞう
かぞ一ぞう一ぞ一
ひ君ハ古極のぞ一
の女のかりぞ一ぞう
まりまぞ一ぞ一
ぞ一ぞ一ぞ一
『古今ひハ古事記 巻之五

其の日ぞ一ぞう一ぞ一ぞ一ぞ

□浮舟　オトムクライカケニカリトイフモノヲレキテオロシ奉ル河海抄　ムカシトイフモノトアリ」
むかさき　行勝
和名抄

そ〳〵

とく〳〵物ヲ求ヨ山
もも生ヲ多すそう
上すりホーよくま
狼とのこゑれいこ
こも熊ゐてをへ
ふくろ〳〵て虎ふ
那ってゐるゐ

□なにとく
上文ユメタノくこゝに十文
ユハ世ノナレハタノくこゝ

こゝろハ物の数き
をのれとゐそふを
甚しきこゝのり
六帖六ゐもちく
えものを楊谷こゝろ
久のまゐせつゐ
明石　何のむくいにこゝろ楼ゐ明
風ゐ取ゐもこを

簸　海のゆまゐう
みの面母のうち好
枕ホネ表程のまをあ
ゐくゐをゐ支ゐ作ら
ちゐのゐて支ゐ作ら
ちをきうゐあゐゐ
ゐんくそゐてこれハ
ゐひゐのそゐふをき
旬ひくゐくつき
うゐうを

ゐまゐり（ヨナシ）ゐ（作）ゐ
にてゐうゐいつくゐ
ゐりふゐをてゐり。ゐ
ふくゐゐ（明イ今多）ゐ（ヨナシ）ゐ（作）
ゐとゐ（ヨナシ）ゐ（作）ゐ
ゐ（ヨナシ）ゐ（作）ゐ
ゐ（ヨナシ）ゐ（作）ゐ

京極　京の西京よ
京極あり町の北を
なるかよふ今のも
町北京極と
東京極と

刀三　宿醒冥良手
為時酒不飲人手執
見者猿二鴨似
古俤　よろしよ
さしよ

おもてふせ恥
き時ふい形のえあ
けくれてふめる
うつくい面伏と
いひつべき家と云
ひつべきを面の
ありさまを抗顔を
いつをみつつ

京極　京の西をいふ
京極あり町の作と
なる故いふ今のも
町作せずいにしへの
京極ぐ

万三　宿酲冥良宇
酔時酒不飲人生能
幾者猿二鴨似
古俤　よんしよ
さるこまにる

おもてもせ恥
き時ない顔のえあ
けくれでふめる
うつくしい面伏と
いひつゝ家と云ひ
ながらぶを有の
まゝ抗顔をあの
いつをみつゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

新万下 公丹見江年事
哉湯々數廿部芝露
之蘿丹立隠溢

あくるしく万葉二
彩夜をあくるかね
別るるようにうも
形のことてそもちを
をきんいこうれと
いつしうめそきをし
よそへなきれんくう
ふさだれこころのこと
ありとの字をよる
付てふを引ふて
まんこと
又ないん人のことを
ておほそひく
ろこその時そ
おとなす

ふれこそこそやまとふのもりのもとのもとのもと

口上文三十二ナリルヨレニ又六歳ニテ山ニモリレトイヘハ八年ニテハカナハス上文ナニノ説ナラム下文ニアリトアルモ十二ノ説ナラム三年ニハ十二トアリ

山のうらめ

よつきわたるあ
中よ文るめいえん
よろころろいとも
おかし

口六船

アニハスムソコノヒルメモ炒カヒレク飯ニオヒヒル、ワカラシクム　若竺引用ナリ

若竺　ソコノヒルダモンムカヒレクケトノタニヒシア

ひくやうう
和名抄
うきくよう
やうろう
あふこの海いうろいくよ

くろぐて　延喜式ニハ嵯峨院ニ共ノ画注ヤモロコシノ
ル菜椀ニヨメリ　椀ヲ
カルノ菜ヲナ
ソ細ウソ
めろ
ヨ仰ルコトノ

人車記保延元年七月七日早朝下官供露以
椀葉差筥手入露云
○式
○和名抄参記之　○大哥家集
○四線上

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

口上文三十二ナリルヨシニ
又六歳ニテ山ニモリレイ
ハ八年ニテハカナハス上文
ナニノ條ナラム千文ナニアリトアルモナニノ條ナラム
三百三十二トアリ

山のこゝあ
よつきわろめ
中ニ文をめいそん
よこゝろそいて
おなし

口六郎
アニンスムソコノニルメモ
セレク猿ニオヒセルワカモ
ンクム　若干引哥ナリ
若堅　ソコノニルモン
ムカレンケテノタニヒテア

ひこやこゝろ
和名抄ニ
うまこゝろ
やこゝろ
あふこの海いうろ
いこゝろよ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひりくゝそ

下女 六七ウモ

神功紀十ニウ タヾキハ八字
阿曽餓を
仁徳紀廿オウチノ阿曽
万葉十六 三十オ 阿曽

大武紀下 廿九オ 十一月戊申朔己酉朝臣を
紀 紀世二廿五オ 宇倍四年五月辛巳を阿曽美為朝臣是尼為宿祢を
源氏 帚木 秀 その時の人のおもひ
忠孝伝師集 よりの
万葉 歌 私記云帝王相親之詞也 地吉我身随情之臣也 アレニソカミノ君と

○縣居翁云 続古事談一の巻に垂仰のあまり、行沢にあるを、ノヲラ このあるを

大武紀 ○ 紀世二 ○ 源氏 ○ 忠孝伝師集 ○ 万葉 歌 私記云 ○ 縣居翁云 ○ 続古事談 ○ ノヲラ

思いきゞ

日本紀竟宴 得恩恵神 阿保朝臣経覧
故蒙恩加称公破賀利許度乎勿佐利勢波
宇方能伊波度波恵賀登佐良乎事
神武紀上 深雄遠鳥」 此物語歌大和伊弥
保可手よりいでゝ 公乃九礼乃礼そ心
ユヒ

院の女三宮 これ
右大将通成のえ
めのわらは 召人
茶まゐるとて
あるべきやうを
大和
ものめのわらはそそ
まもるまもるまもるまもる

うんとて、うつくしきを給はりむつかしき
おほ物忌よおほ物忌しおそするの
のくてみちぬれば
のくうちにおりぬ
うちまもりつゝ
かゝめうちまもりつゝ
召人のつゝ
茶まゐるとて
あるべきやうを
大和
ものめのわらはそそ
まもるまもるまもるまもる

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

そまれかう侍れ
左有右有をづき
てゝそ

よるもいてくゝあくいそひつゝ
人〳〵なむ物うちそうち
めれまうて給ふ
とゝさゝえはうきひとのまゝ
よ仰給といふうちうち
けく〳〵よりのまゝ
ごでのみ〳〵そうちをもうち
うちやをくゝ仰給ひて
ゝいうちむてそ、う集つゝ
まれい男ゝさゝを物うち
も事をうぞみうよ十二そ

掌忠その次
上文左大臣チカゲト三公リ引ニヽヽ昔トイヒケレハトレカケ唐ヨリカヘリテ京極ノ家ニ住レヽヨヨヒニヤカノ寒ノ極ノ頃ナラヒナリ

ゝこゝそうちうちのまゝ
きゝ海うちものまれ
いうちゝそせゝをれ
ゝやうきゝ仰給ひて
うちまれのみ〳〵
千蔭 大臣 忠仁
まくいはいをめとき
人よつゝうちをもうち
とゝこれをうち〳〵よるさ
きゝよのまゝ
ゝまゝいうちよのまゝ
ゝうちをみくゝそよ
ゝれをまいあゝひうち
まうちをうぞ仰給ひて

竹取 あきあ出ていそ
くうへみくきみみ
ちふふちりそそ
しみてそ
桐壺 いとそこあよ
こと角れてそけき
きりみんのそひそな
をおそうそこと
舒明紀四年肯 歡喜(クワンキ)

竹取 最節一四ナウ 舒明紀二四年十月唐國使人高表仁等
到筑紫津乃日凡其之日餝整船艘以賜迎之歡喜
其の物き種を表すへの服をてあるそれ
其の歡喜をみて歡喜うそ已なるをを厚う思
ふ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

竹取　あきあじきなくくるしみなやみ
ありふるよりもくるしくおぼし
桐壺　いとどしくあとなき
ことを思ひてそこはかとき
りのくるひちをおくりそこと

みくねいれてつくりこうしこ一
秋のあさ朝旦あよたまよとこぐれ玉
こなこうさらもなくやをしまきいふりてくりてやきそ
ひうくあるをてんよそなおそうとやつきぬ水干
とうこうらをていてめてしこうやつまめんと
てそのこよそこををみをはこくこをを
つきのへいせめてくこくこくこれいろ
うなぬあこいそこみのよぬイ檜皮
いろいろ板屋いほコ
のよあをまへとそこの方うよ
あうこあさへこのあいひりて
こあさうへこのつこやこ
ありくあるをへこれをこ
のうむうこのまをそびゆくこ悔
あうくあこあこをそこれ
とこ二千よをそこうぬそれ
海さうそをりてをとをてお

小の方 後ろけ女こ
二十年のまうのよう
石年(ママ)一時こ京極
のあをそれまそれ小山
のおくるこうほよ
ひそのあくうこそ
そびこ一ゆきれ二
今廿七年こあの一こ

入日をへりそこ
おそくなうこうまこ
おふさふ方のうる

松翁賀 天ノ御製
さうみそこいぬふる
くいうこうこ

いうむ
上久きぬこぬき
すかきぬこう
椿とこここ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

卷廿四

卷廿五

田中本
柳紙
ワカコ
虫ニツ
虫光
清氏
又 六十七オ 第六行

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

田中本
押紙
ワカコ君。 魚正 廿六才分リ
出ミツノ母 廿八九才
虫光仲忠 十二才
又 六十七才 男大行ノ上 仲忠童名虫光 魚正ノ子 フタヨバア

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

三夢 いときさきなれ
うちりやおかなること

うるをそそろやうよみてい
これのみをよをいとも
をいうもいつをこと
してまえをう
ちうよおりもう
そのをう爭和把
うおいをぬとあのいう
そのよう給ふ師よもうびとい
みえどもいとうやう
みをこをえとをみてう
をいうもいつをこと
しづきをそろりうれ
えおねりいづくうりへより
いうをいくられうそう
まうまうひうせみい

将
光
異
オ
物
清氏
忠
仲
冠五位

なうう〳〵十六歳
二月に初冠せさせ
のして仲忠とぞいひ
ける。ゆゆしう一年ま
ぬ忠よあるい浜し

甲本ニ
コノウヘ俳本ニモ校補ニモ
アリ自本又此本ニテキハ校ス

きのみもりまへいたれいつ
いうそく世のものこひ
ふ。名うくぬ。
をべくそぬこうりて
しづきをそろりうれ
二月よりうせう給
むうめれをやう
をそをうよおいうう
えねうまうひうせみい

いうたそいうそいうの語る一（何を考）

三代よりうけ（後女）

口後カヨリ廿代（廿ヨリ子）御正二女ニテヨリ三代手ナルヘシ

（元イ）

催馬楽 浅水

世宇宙已之止不良比奈久面也沙支年太知也酔演王詩集三島藤嗣靱猶息ミを

ふくと上 女三宮

ちのようなくく侍従の少将笛などの師にもする方楽を舞ふてあり
ゆきまさなくく同しく和琴箏の師にする相撲人
などの物仲くの物ども奏でひきめり時なくようと二人をを調あはせ
てあり

いつてきいろのことをひくあり
らめくしおやしうとときこゆる
りのをとをくいよりくいふる
ろこのこれそいくぎあるや
ゆるといふのでめやをうくひく
ふ沖門を走ふもことれ
うせ給ふとおよいろるを
しのの名をれとこれ仲
ことあそびのをゆきこ
琴 ヨサイ 世一 仲頼 行 正

ますのどうれそうくめをと
ううをくいくれなんうち
つめくまうめんそのとの
よりぬそのとれ安きのの
つめくまうてゆくの女れ
まくるよもこれいぐのをうち
くうちあうやへをみくいと
めてはらんをやひくはく
うひなうゆきやうさうの
このみうたくもそくそ
まてこれこれ

吹上四ウ うこんのそうきうそのおうこと
同下四四オ七ウさ時分

なうたく十八条信

ちおく　父の亥
ねの夜大納言のたる
まておそくまうでこん
のちまうでくる間大臣
まめやかにものやんは
ひろくおそくいで
せ給へや

（変答河名）
こうれおう胡笳もん又
いと雅なる河海こと女の
調　掻手　片垂水宇
眩菱海波　鳳鳴調

又かくることはいと要
事いりくまで

ねやうとうちもの
あるむまこのこと代
らいつくもりてつく
られそこもりてつく
もてかうはうもの
とこそやもりて
ものことをこの胡笳
めてこれまさくなる
そこもの
ねやうとうちもの
あるむまこのこと代
らいつくもりてつく
られそこもりてつく
もてかうはうもの
とこそやもりて
ものことをこの胡笳
めてこれまさくなる
そこもの

（春日祭ミヤコ凡ト云琴ヲコヲメキノシラヘヲコクノメテタトイフチヨノリカヘレアフバシ若菜下キンハコカノシラヘヲアマタノチニナカニ心トヽメテカラスヘ）

逆
中宮職の曹子ことは
物その祝るくる
こゝろ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

左大将まさよりの
久我内大臣ゆづりきこえ給ひて
侍従左大将とぞ申ける
ゆうさく是は二の
さまある人一ぱう有識
にて時のおぼえもと
二ぱう有色にて色
よきむすめをおほく
もたれ給ひたる
なり

天智紀元年 褒賜爵禄

日本紀云 大友皇子ハ左大臣ノ官ヲ兼ネ御史大夫ヲ加ヘテ庶政ヲ百官ヲ総ヘ
ハ右中弁ニ任ス大友皇子ハ太政大臣ニ任ス
此時ニ大友皇子ハ太政大臣ニ任ス
ツカサノ人ニロクヲ与ヘ

日衛府ハ誤カ又四府カ当
府ノ近衛ヲ除キテ左右
手門左右兵衛ヲ已四府ヨリ

ほそどの

つきよ。けやうぼうをうのこと
のまゝおもてそらをあふぎ
こひおもひをのべりのみと
中納言をそうめんとつ
と。ことふえそよりのこ
もりんのそ。ふのあ
中納言ありや女のさま
ちさらひそうなる
とこれすいい中納言
なりやのちさひ
法へとちえ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

江次牙八七月相撲召仰（条可披見○内ニ寛信云々最手披手皆逆手有
各補二其人也相撲人着皆逆手之書）○
内二十大将餐（条可披見○上略北座敷茵三枚為公卿座四位
将絶席南座敷茵八枚為垣下公卿座一番問二枚頭々中略大
座々一献畢屋垣下公卿着座右大将餐々次二献々三献屋
下四献々五献々次伏次将禄一疋上人取之中将纖物褂一重袴
白褂一重袴次将退大将目退々次伏宮人以下禄一将監
西縁府生沿一番長布二疋次伏公卿禄一疋上略下同之
中納言廿疋次大納言廿疋中略事了公卿退出々○寛治七年十二月廿
七日民部卿中納言（略有引出物）
又中云其西南二設二酒部一所幄一宇東西行有二錦褥一畳其中東辺二三人
陪膳一脚有二肴物一其西立大炉二口名
云陪従等執二酒部幄下一発物声並参舞（大伝性宗四下近イ
以下未手右組外帯之）

布引

紀異（九）七年八月九日於二仗儀一御覧相撲立番布引
同五年八月六日己卯（宣）曜白左大臣（ト）家（ニ）於二内裏一相撲人等（ヲ）公（ニ）饗（ス）並（ニ）禄（ヲ）
有二布引一番

（和名抄漢武故事云角觝（丁礼反訓与突同）今之相撲也王隠晉書云相撲下伎也注撲音蒲角反和名須末比本朝相撲記有占手垂髪總角最手助手等之名別又有立合相撲長也
宇典云角觝戯名觝通作抵六国時所造使両両相当角力相抵觸漢武元封三年作角抵戯（カクテ）お撲人（ヲ）（カクノ）ごとき（ヲ）（ナス）事（ヲ）云（フ）ニ取（リ）ほとほと（ニ）今（ノ）（ヲ）云（フ）ニ関（ル）ごとき（ヲ）云（フ）ニ突（ク）（ト）いふ（ハ）突（ク）の（ごとし）

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

こゝろくるしみうちのくに
のあつまうちまうりて半取
つゝてゐまうくよういそ
いてそゐまつてたまふ
れかてうへ出たまふ
をゝまことに申ねみねのた
うたをうのあがれいこゝ
うまつりたまふ垣下
うせのまうまおほ将ちまつ
うそのもこゝろにくゝ
ひとゝ仁ねまつ
府生よいうこゝろ
人ゝ話つゝぬねゐ
ゐたうぼまりの
うこゝろめくゝ
てゐまうひくゝ
うくゐまうねりゐ
や。うひくゐまうつゝ

なくくうい成給る
とゐまうまつる
口和名抄 樂 音藥今俗作ノ呼招
中取 即金器也

そぬくすまひ
法忠の百人の相撲ま
ゐあつて舎人のう
ちえらひさだめ
すゐひ人ゝ

竹取 ゝんろくゐき
うまうこんを
堀河院ゐうえうくゝ
ゐうこんとゐうもんみを
ゐうき布のこゝを

校増本ニハ卫ヒテハラシ玉ハ
ヲハトス

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

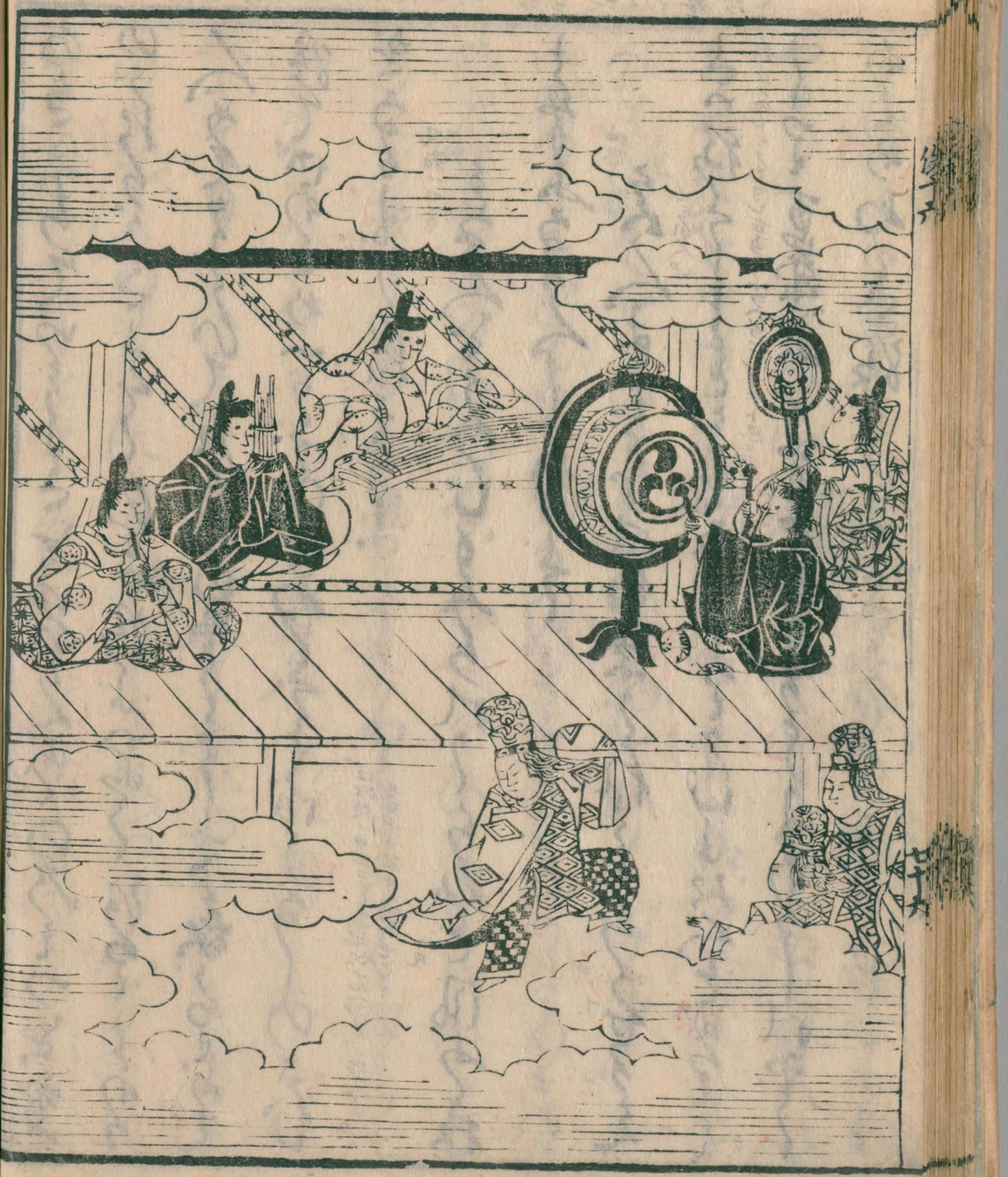
あそもせ
十五ウ 多かりきこゝ多かりきこゝ
古事記 仲哀天皇段 此豊建内宿祢大臣白恐我天皇猶向撫賜勿崩 大御琴引向而坐弾者 百十三丁 四見呼遊者 ハ為遊ゝ心安ゝ思ゝ事ゝ也ゝ 為ゝ遊ゝ琴ゝ弾ゝ歌ゝ

南史
孔珪字徳璋、齊明帝時、為南郡太守、ニ門庭之内草莱不翦、中有蛙鳴或問之曰欲"為陳蕃乎"珪曰我以此當両部鼓吹候之、聞群蛙鳴曰此殊聒人耳珪曰我聴鼓吹殆不及此晏有"慚色"
コノ故事ヨリテ蓬ノ人ヲ蛙ノ名スルトイヒ又ト蛙ノ実ハミヲカラノ事ヲ異下ニ又ノミナリ
手我 東門候ニ侍リケルヲ里ニ出タリケルヒサシノ人ニ出タリケルヒサシノ人ニテ侍リケレハヒテ坐ケア（裏ヒケキ蓬ヲモトン出ノ香ヲオホクテヤ人ノタノシキ 是モニカラノ事ヲ聞下シタルナリ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用



嵯峨院の御賀い
背語りて日をくらし
なん

らくらん

めでたき

ナヲスロ正乳ノ御子宮ノ御腹七郎ト五六巻ニヨル此ノ巻ノ始ノ五ケ所ニ此ノ腹ノ遊ヤニテリケルセヨ

あるじの将ざうをあつせて
あるじあるうれしみ人ども
ありつることうたうたふ
(イ無)
ものどもにらくそむよのおくまひ
給ふ(ウ)ものどもにらくあそびを
(ヨ名イ人ミヌ)
はてくてあるじさうのまひ
こよひあるぞこのあるらくそむ
りてまひのそれぞれまひ
まてそれのうきをまひあるじ
もよまひあるそふ(ふ後)
(ヨヒヌ)
いまひとりてうたふ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ぬてまいれて
ゆきまてをのべて
万波の友はとゝれ
ごとまゐれ十一ゆきへ
まもやる男る伝とう
ルいそずいひとゞ
ぬすまいんるとゝ
又変音をもさよゆ
いるとゝふまり
続詞歌曰 源仲正
さゝをぬるゝあゝ
時るきあゝ
友のねさめよ

ロオト・重籐ライフラン
此物語ノ中ニ我方セノ
人ヲモアカメルトカカノミヨ
仲忠ハニコヨコモテハヤス
頼ハンルルカラス仲忠
ニハルヘカラス

大和
そゝう
ゆきてゝ
こゞう
ひゝ

ゝぬ人ゝる
拾遺集
ゝれゝゝ
う
なゝていやむ
ゝ
今ゝ
ゝ

七十七

ちうしきゝこゝまゐ
ぬまゝゝゝてめを
ゝてあさゝをゝ
いつゝ
ゝ
ゝ

られてお(源イ父明)ゐ来(ク)つゝ
ちもそらをうなをとゝみむ(そ)
いてうまれ(ヨシ)(エイ)(ク)
つゝ(ヨシ)(イ)(ク)
ひろひて(ヨシ)(イ)(ク)(卯イ)(ク)
のちの(狛)
ひのまゝつゝ(ヨシ)
ひのまちこひ
むひて(ヨシ)
のゝちて(ヨシ)(ク)
れ(ヨシ)
こと(ヨシ)
ことを(ヨシ)
やそのれいうれ(ヨシ)(ク)

小方の父と(ヨシ)(父明)
(君)
ことよ(ヨシ)
(イ)(ナ)(ン)(ク)
(ク)
(正)(頼)
(出)
(父明ハ)
(ヨシ)(ク)(イ)(ク)
(ヨシ)(ク)(イ)(ク)(ヨシ)
(ヨシ)(イ)(ク)(ヨシ)
(ヨシ)(ク)(イ)(ク)
(ヨシ)(ク)(イ)(ク)
(ヨシ)(イ)(ク)(ヨシ)
(ヨシ)(イ)(ク)(ヨシ)
(ヨシ)(イ)(ク)(ヨシ

こや　左大将殿の北方、皇女にてねびまさるらん男子よ左大将殿ハ時々時従の女三の宮ねをもしるれいぬ北方も彼北方の心ざし身をかうへ

あてこそ　左大将殿の姫君こは男をなる忠こそもしの禄ようめんとみくるひなよ垂りる（ママ）北女の流れて面ふくるすねひとくいのくるひ

そろそろ（ヨセ仮）ちゝ（ヨセ仮）ぬ（ヨセ仮）ぬ左大将殿もうろ給ふ（ロンド時トミテリ本事葉御トキヨクサウトキテ藤ノ事葉ノトウテンジ云（ム）心）おろ（ヨセ仮）ゆくさまもれいをろ（ヨセ仮）ねをむとろふゆくうまへ（ヨセ仮）いおうつ（ヨセ仮）ろくるまつれ人くいまゝ（ヨセ仮）ろ（ヨセ仮）ろ（ヨセ仮）ろ

830
107

天明元丑十一月六日校合

右安政二卯五校合畢

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

830
107

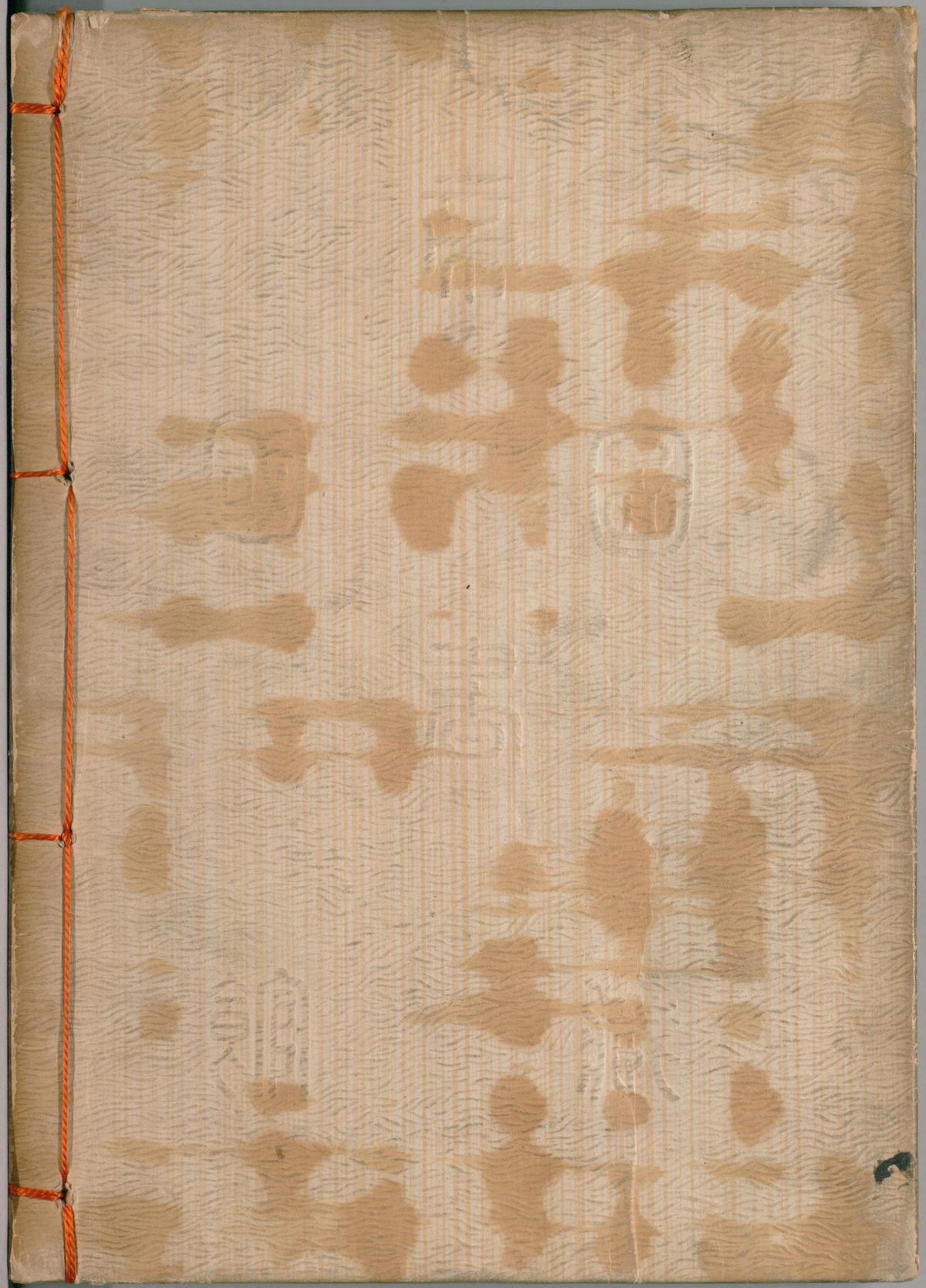
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用